

未来貢献

校長だより 第44号 令和6年12月23日発行

“話を聞くときの心の向き…”

自分もそうですが、人の話を素直に聞くことができるときと、そうでないときがあります。中学生の皆さんもそういう人はいるのではないかでしょうか。素直に人の話を聞けるときは、初めてのことをするとき、自分の興味のある話が多いと思います。では、話を素直に聞けないときとはどんな時でしょうか？おそらく何度かやったことがあって“もうわかっているよ”ということや、自分にとってあまり興味のない話ではないでしょうか・・・。これらは仕方ないように見えますが、特に前者は、その人の成長を大きく妨げてしまうことにつながるものなのです。“もうわかっているよ”は、自分はできている、完璧だ、というある意味おごりというか慢心がある考え方です。そうすると話してくれている人に対して自分の心が、正面を向けなくなり、斜めや横を向いてしまうのです。そして、これを繰り返していくと本当に自分にとって大切な話に対しても心を正面に向けて聞けなくなってしまいます。この姿勢は、話をしている人にも当然伝わるので、今度はその人が大切な話をしてくれなくなります。どうですか？自分の成長につながる話があるかもしれないのに・・もったいないですね。

中学校生活では、中学2年生の生徒がよくこのようになるので、「中2病」と言われています。成長する過程で仕方ない部分もありますが、とてももったいない時間ですね。心の向きが横を向いているともう一つ大きなマイナスがあります。それは、何をするにも「～してもらえない」「こういうふうにしてくれない」と受け身な考え方になり、他人の責任にすることや文句、愚痴ばかりが増え、自律できなくなります。それに対して心が正面に向いている人は、してもらった話を自分の中に入れ、「これからはこうしよう」「こんな方法もあるのか、試してみよう」と前向きな考えが生まれやすく、自律につながっていきます。今の自分が、もし、心の向きが正面でないとと思っているなら、早めに心の向きを正面に戻しておくといいと思います。この冬休みはいい機会なので自分自身を振り返って見てください。後者の自分に興味のない話、これも今の自分のレベルを上げたければ“積極的に聞く”に変わった方が、いいと思います。自分もそうですが、自分の視野は広いと思っていても、実はかなり狭いものです。というのは、主に日頃から自分の興味のあることばかりを見たり、聞いたりする習慣が自然とできているからなのです。今以上に、自身の視野を広げるには、あえて自分があまり興味のないことにも意識して話を聞くことが必要です。もちろん心を正面に向けてです。きっと、今まで知らなかった繋がりなどをたくさん発見できると思います。話を聞く機会のない場合は、本、テレビ、映画などからでもいいと思います。いずれにしても、心を正面に向けておくことが一番大切です。この姿勢を保っていれば、自然といろいろな人が、視野を広げるきっかけを与えてくれるはずです。自分も皆さんも、今以上に視野を広げるために話を聞くときの心の向きを意識してみましょう。お互い、頑張りましょう。